ふるさと猿橋学区の今と昔をお伝えする情報誌

一本杉通信

2018.4.11
猿橋学区ふるさと
交流実行委員会

volume 3

まだ雪残る猿橋学区

弁天橋下流の奇岩に積もった豪雪（撮影 A.T）

みなさん
お元気ですか？

実行委員会
委員長　髙橋　久雄

猿橋学区の情報誌「一本杉通信」第3号が完成し、皆さんにお届けすることができる運びとなりました。今年は雪深かった猿橋学区でしたが、3月も後半になると春の気配がしてまいりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今回は、猿橋学区の鉱山と、かつて大いに盛り上がっていた演芸会の様子を写真を中心に振り返っています。懐かしい顔を発見できるかもしれません。

また、情報誌第2号を読まれた出身者の方々から、故郷を懐かしむ声や温かい励ましの声を多くいただきました。ありがとうございます。何のイベントがなくとも、ぜひふらっと帰ってみてください。地域一同お待ちしております。

一本杉通信 vol.3 2018年4月11日発行
発行者／猿橋学区ふるさと交流実行委員会　事務局／西和賀町ふるさと振興課　岩手県和賀郡西和賀町川尻40-40-7TEL：0197-82-2111

猿橋学区からのお知らせ

カタクリの群生

見ごろ：4月下旬～5月上旬

雪が解けて春を迎えると、山々にはカタクリが咲き始めます。桜と重なり、一面に咲き乱れるカタクリはとても幻想的で美しいものです。ぜひ見に来てください。

帰りは西和賀の美味しいものと温泉でゆっくりと…。

カタクリと桜の共存【安ヶ沢】

出身者からのお便り

2号を読まれた出身者の方からの声を一部ご紹介します。

「八年橋に思いを寄せているひとりです」　長瀬野出身者の奥さん　匿名さん（60代）

ある夏、夫の実家に初めて帰省した時、八年橋を渡り七内川に向かいました。川の水の少なさに対して「立派な大きな橋に、なぜだろう？」と思っていましたが、答えはすぐに出ました。

三方を高い山に囲まれている旧沢内村は、前日の大雨に和賀川の水はふくれ上がり大蛇のようにうねり激流となりました。昭和30年の大水害で流失した無残な姿の橋、仮橋も写真で見る限り「無事に渡れますよう」と祈りながら渡ったに違いありません。

大自然の力に負けない「立派な大きい八年橋」生活の橋であり命の橋でもあると思っています。

「一番印象に残ったのは懐かしい写真」　猿橋小61年卒業　髙橋直樹さん

この度は、25年前に猿橋小を卒業し、東京に上京した私にまで情報誌を送付していただき、誠に有難うございます。

私は現在、東京の警視庁で警察官として勤務しており、今年で27年目を迎えます。これまで辛く厳しい勤務もありましたが、どうにか乗り越えてこられたのも、少年期に豊かな自然と尊敬する両親、祖母、兄弟、そして地域住民の方々に育てていただいたお陰と今さらながら感謝している次第であります。

さて、今回送付していただきました「一本杉通信」で私が一番印象に残ったのは、№2の懐かしい猿橋学区です。忘れかけていた子供の頃の記憶が蘇えりました。また、弁天の写真は、私の実家の近所でありとても懐かしく拝見させて頂きました。次号も楽しみにしております！

西和賀の冬は長くとても厳しいとは存じますが、皆様方の今後の更なるご活躍をご祈念申し上げます。

ふるさとのいま

弁天地区

毎年１月２日に行われる書き初め。どの地区でも前は公民館を利用して集まって書いていましたが、最近では各家庭で書いて提出する地区が多くなりました。そんな中でも弁天地区では毎年、公民館での書き初めを続けています。みんな真剣な表情で取り組んでいます。

猿橋学区のご長寿

猿橋在住

猿橋　昭一郎さん (90)

昭和３年生れ９０歳。
男６人、女２人の兄弟の長男として生まれた。

若い頃は、亡くなった奥さんと一緒に、農業や土方をして働いていた。当時は今みたいに農業機械が無かった時代で、農耕用の馬を飼っていたという。後に牛も飼ったことがあるそう。40代頃からは冬場の出稼ぎとして、福島県のいわき市の常磐鉱山に働きに行った。そこで15年位働いたという。その時、肺を病んでしまい、今でも酸素のチューブは欠かせない。

今一番の楽しみは、週3回のディサービスに行くことだとか。お風呂に入ったり、お昼ご飯やおやつの時間が楽しい。まわりは、ほとんどお婆さんたちばかり。でも、おしゃべり好きな昭一郎さんは、お婆さんたちとの会話も楽しんでいる。人とのコミュニュケーションが長寿の秘訣なのかもしれない。

長瀬野在住

髙橋　清喜さん (39)

西和賀高校卒業後、北上の半導体関係の会社に就職、三年後西和賀にＵターン
美保さん　水沢出身、３５歳
碧彩ちゃん（あおいちゃん）６ヶ月

猿橋学区の若い世代

高校卒業後、北上で半導体関係の仕事をしていた清喜さん。Uターンのきっかけは、あえて言うなら、詳細な半導体のしごとで顕微鏡を使うことで、視力が下がってしまったこと。父親の内装業を一緒にやってもいいかなくらいの理由だったとか。帰省してからは、家業を手伝うようになり、今も修業中である。

美保さんとは、お互いが好きなアーティストが同じことから縁があったそう。２年前に結婚し昨年９月に、愛娘の碧彩ちゃんが誕生。子育ての不安は、沢山あるという。仕事、ドラッグストア、病院、コンビニがない、冬が大変…。今年の雪の多さには、ビックリしている。

でも、今は、家族が楽しく暮らせれば、それが夢と清喜さんは、微笑みながら語ってくれた。仲の良さが伺える。

地区からのおたより

故郷を思い出して交流を

長瀬野区長　新田　正弘

「一本杉通信」第3号発行にあたり、長瀬野地区のくらし、行事を紹介します。

長瀬野地区はかつて、旧長瀬野小学校を中心に古くから、人々のつながり、絆を深めてきましたが、昭和46年に猿橋小学校との合併により、閉校となりました。平成24年に記念碑を建立し、旧校庭で青空の下皆さんの参加をいただき、大同窓会を開催しました。

また、同じ46年には長瀬野地区集落再編事業により、現在の新集落に和衷協同を掲げ移転して、県内でもいち早く先進的な生活をスタートさせました。同時に公民館活動での冠婚葬祭等の共同実施などにより集落の発展を進めてきましたことに、先人たちの苦労を今かみしめているところです。ふるさとを離れている皆様にも今一度振り返っていただきたいと思います。

さて、地区の年間行事の一部を紹介します。

元旦には新年交賀会・歳祝いに始まります。

2月は「雪あかりin西和賀」に参加して集落に雪あかりを作成します。県立大学、みどり学園等50人程の生徒さんとの交流による雪遊びで「雪あかり」を盛り上げています。

3月は「定期総会」で年間行事の総括、事業計画を決めます。

5月は旧小学校跡で本州最後の「花見」、6月は新集落で「さなぶり」、7月「蛍まつり」、8月は13日に先祖をお迎えし、帰省された皆さんを歓迎する「日本一小さな花火大会」を、15日には青年部の屋台が大盛況の「盆踊り」を、8月後半には「敬老会」を盛大に実施しています。

12月には「新集落移転記念祭」など、農繁期以外は毎月のように行事があります。皆さんに参加していただくことが私どもの活力となりますので、是非参加お願いします。

最後に、皆様がそれぞれの分野でますますご活躍されますことをお祈り申し上げます。

和賀川から和賀岳を望む【泉沢】

県道に迷い込んだ野ウサギ

霧氷八年橋下流

樹氷 蛭山のケヤキ大木【弁天】

雪の写真館

雪あかり 2018【猿橋】

なつかし　猿橋学区

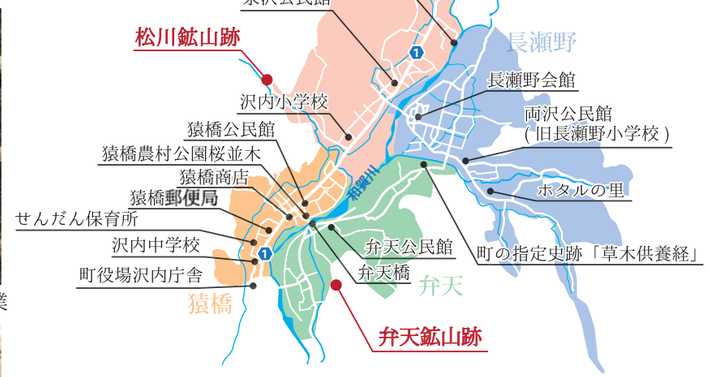
鉱山

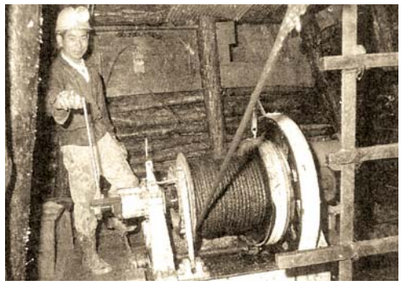
松川鉱山は明治36年に金山として発見されました。その後、銅鉱脈の発見により銅鉱精錬所を設けて盛大に操業していました。大正5年には選鉱場を建設し規模を拡大させ、当時は、事務所、倉庫、売店、飯場などの建物が並び、たいへん繁盛していました。写真にある山の神祭り（10月）の際は、露天、茶屋、芝居などで賑わったそうです。その後、横黒線（北上線）開通と共に精錬作業を撤廃して売鉱に転じました。その後徐々に規模を縮小し、昭和38年に閉山しました。

弁天鉱山は、古くから稼行されたものらしいですが、近年における変遷は、明治38年に福島県の上田氏が初めて鉱区を設定して稼業を開始しました。明治42年には東京の山本氏に譲渡され、同44年にはさらに茨城県の小瀧氏の手に移り、昭和6年に日本興業株式会社の所有となりました。その後昭和13年頃に本格的に操業を開始しましたが、昭和18年、金山整備によって現在の鉱行権者に移譲されました。（沢内村制100周年記念誌「豊かな自然　保健のふるさと」より）

旧松川鉱山溶鉱炉

旧松川鉱山選鉱場付近




旧弁天金山鉱内鉱石巻上作業

旧弁天鉱山の坑道（昭和 43 年採掘）

旧松川鉱山山の神祭りの様子

演芸会

演芸会は、当時はどこの地域でも青年会を中心に開催していました。毎晩公民館で一生懸命練習をし、地域の人は楽しみにしていました。

写真下は昭和55年に開催された泉沢会館落成記念『演芸の夕べ』での様子です。会場の猿橋小学校体育館は超満員で、廊下にあふれる程でした。

昭和24年泉沢演芸会記念